

# 2020年3月期 第2四半期

---

## 決算説明会

 東洋合成工業株式会社

2019年11月15日（金）

---

# 1. 2020.3期 第2四半期 決算概要

## 2. 2020.3期 事業概況

## 3. 2020.3期 通期見通し

## 4. 今後の展望について

# 2020年3月期 第2四半期 業績ハイライト

- 売上高は、12,189百万円（前年同期比+1,012百万円、+9.1%）。
- 利益面では、感光材の能力増強に伴い減価償却費・労務費が増加したものの、先端材料を中心とした付加価値の高い製品の販売が増加し、費用増を吸収。
- 営業利益は前年同期比+45.7%、経常利益同+26.4%、当期純利益同+26.0%。

(百万円)	前期2Q 実績	当期2Q 業績予想値	当期2Q 実績	前年同期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	11,177	12,500	12,189	+1,012	+9.1%	△311	△2.5%
営業利益	801	1,000	1,168	+366	+45.7%	+168	+16.8%
経常利益	842	900	1,064	+222	+26.4%	+164	+18.2%
当期純利益	550	600	693	+142	+26.0%	+93	+15.5%
為替レート	¥113/\$	¥107/\$	¥107/\$				

# 2020年3月期 第2四半期 決算のポイント

## ■売上高

- ✓ 12,189百万円（前年同期比+1,012百万円、+9.1%）
- ✓ 感光材セグメント：新規EUV世代向けを含め、先端品を中心に販売増加。  
化成品セグメント：電子材料向け溶剤関連は、汎用用途は減少したが、先端プロセス用途は増加、香料材料関連も増加。  
ロジスティックは安定維持し高稼働継続。

## ■営業利益

- ✓ 1,168百万円（同+366百万円、+45.7%）
- ✓ 感光材の能力増強に伴い減価償却費、労務費等が増加したものの、先端半導体プロセス向け感光材、溶剤の売上増加により増益。

## ■経常利益

- ✓ 1,064百万円（同+222百万円、+26.4%）
- ✓ 3月末比で円高で推移し、為替差損計上、為替差益計上なし。

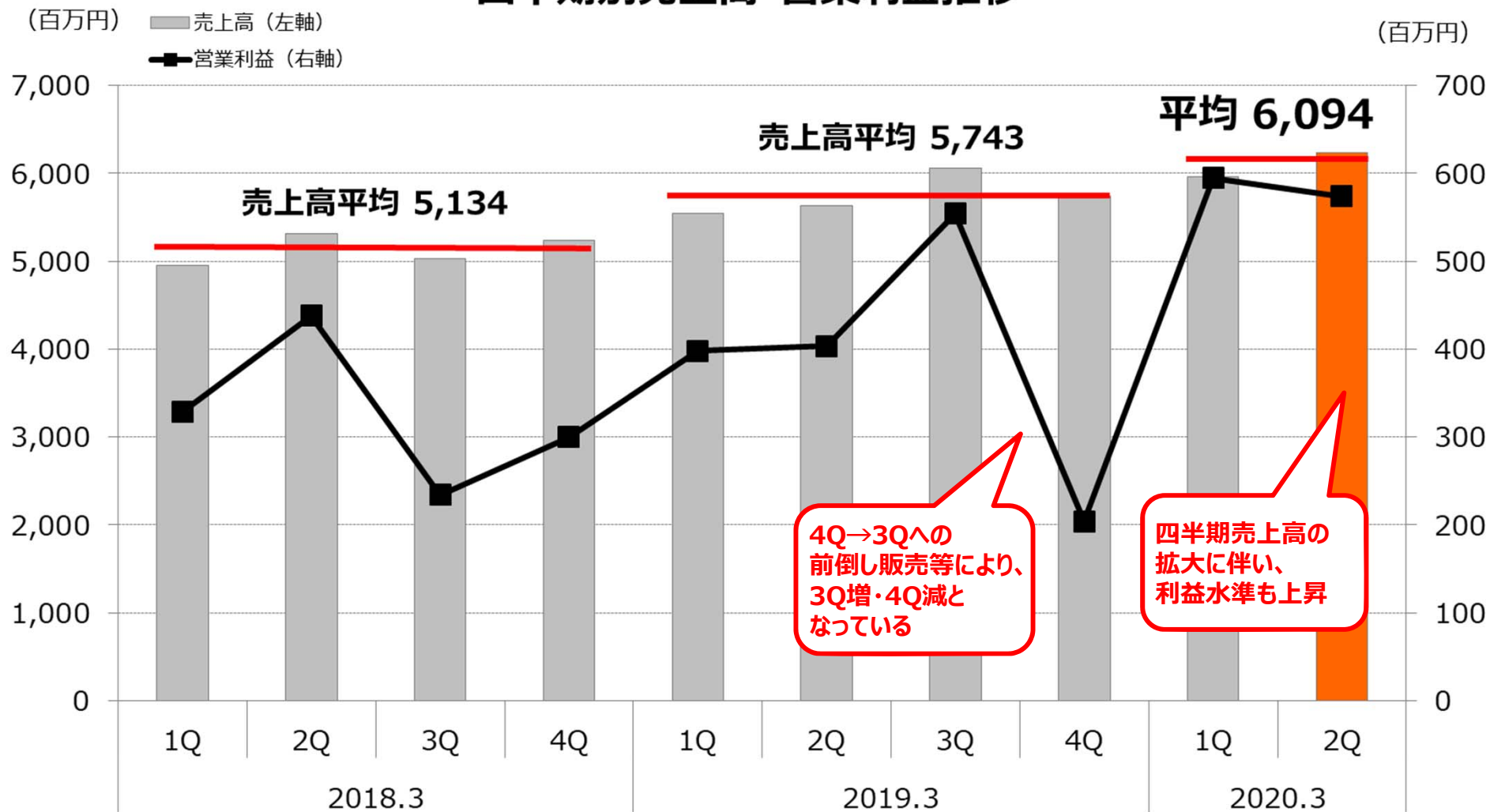
## ■当期純利益

- ✓ 693百万円（同+142百万円、+26.0%）

# 四半期別 売上高・営業利益推移

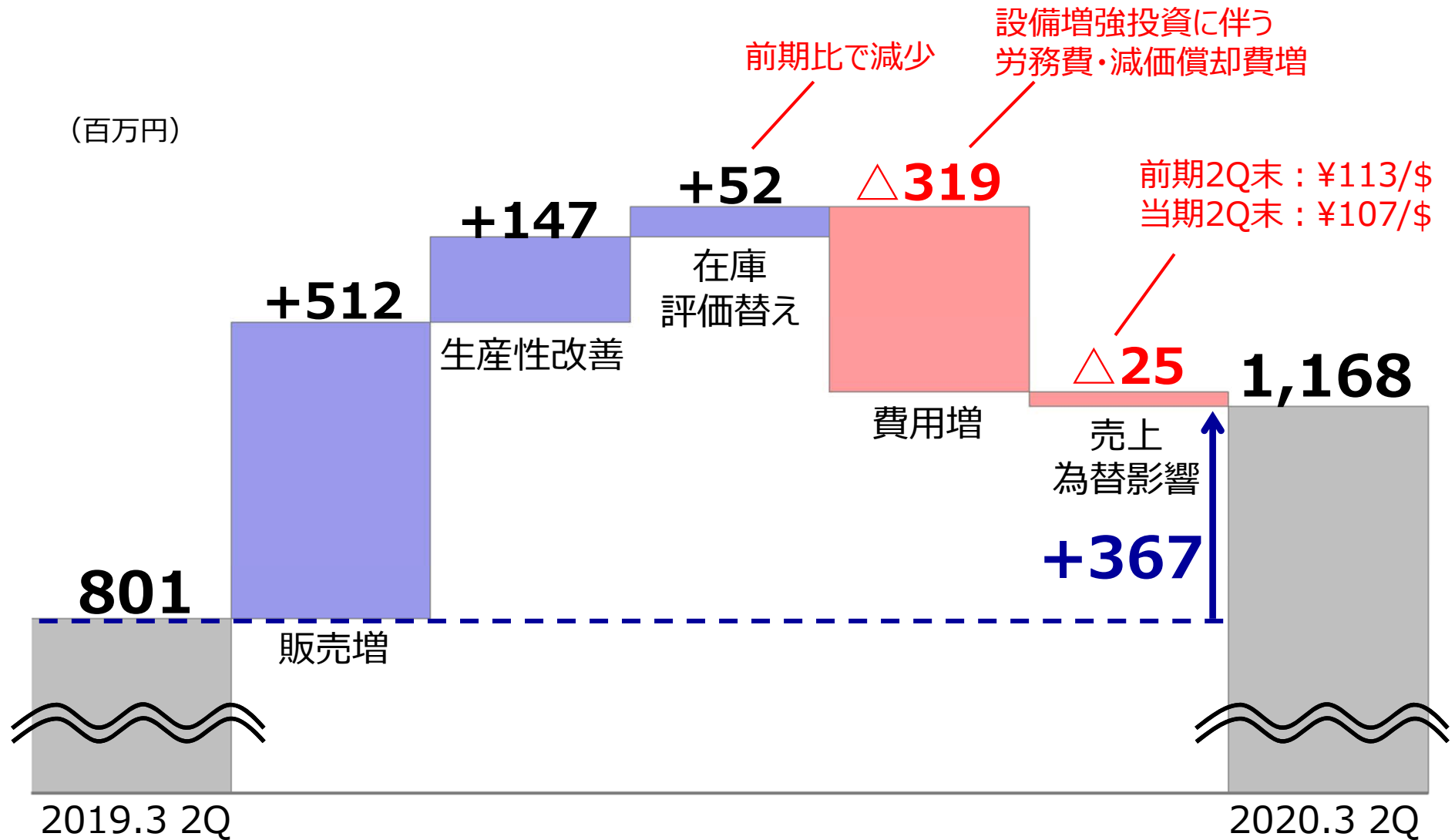
- 四半期売上高、営業利益は着実に増加。

## 四半期別売上高・営業利益推移



# 営業利益 増減要因

- 設備投資関連の費用増を、販売増で吸収し、増益。



# 損益計算書

- 売上高は12,189百万円、前年同期比+1,012百万円、+9.1%の増収。
- 高付加価値品の売上増加により、売上総利益・営業利益の増加率は、売上増加率を大きく超過し、売上総利益は+17%増加、営業利益は+45.7%増加。
- 経常利益は、前期の為替差益計上（71百万円）なし、当期為替差損計上（51百万円）。

(百万円)	2019.3期 2Q	2020.3期 2Q	増減額	増減率
売上高	11,177	<b>12,189</b>	1,012	9.1%
売上原価	8,866	<b>9,485</b>	619	7.0%
売上総利益	2,310	<b>2,703</b>	393	17.0%
販売管理費	1,509	<b>1,535</b>	26	1.8%
営業利益	801	<b>1,168</b>	366	45.7%
営業外収益	107	<b>34</b>	△72	△68.0%
営業外費用	66	<b>137</b>	71	206.8%
経常利益	842	<b>1,064</b>	222	26.4%
特別損益	0	<b>△33</b>	△33	—
税引前当期純利益	842	<b>1,031</b>	188	22.4%
法人税等	291	<b>337</b>	45	15.7%
当期純利益	550	<b>693</b>	142	26.0%

[売上総利益 +393、  
営業利益+366]

売上高（+9.1%）に対し、  
売上原価（+7.0%）、  
販売管理費（+1.8%）に抑制し、  
営業利益が大幅増加。

[営業外収益 △48、  
営業外費用 +51]

前期の為替差益計上なし、  
当期為替差損計上

# 貸借対照表

- 感光材設備投資の実行により、現金預金 $\Delta 2,177$ 百万円、有形固定資産 $+989$ 百万円。
- 株主資本は、当期純利益の増加により、 $+653$ 百万円。

(百万円)	2019.3末	2019.9末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>17,228</b>	<b>14,810</b>	<b><math>\Delta 2,418</math></b>
現金預金	5,412	3,234	$\Delta 2,177$
売上債権	4,314	4,250	$\Delta 64$
棚卸資産	6,822	7,162	340
その他	679	162	$\Delta 516$
<b>固定資産</b>	<b>19,637</b>	<b>20,612</b>	<b>975</b>
有形固定資産	18,566	19,555	989
無形固定資産	417	393	$\Delta 23$
投資・その他	653	662	9
<b>資産合計</b>	<b>36,865</b>	<b>35,422</b>	<b><math>\Delta 1,442</math></b>

[現金預金  $\Delta 2,177$ ]  
 [有形固定資産 989]  
 感光材設備投資の実行によるもの

(百万円)	2019.3末	2019.9末	増減額
<b>負債</b>	<b>28,024</b>	<b>25,907</b>	<b><math>\Delta 2,117</math></b>
仕入債務	3,094	2,750	$\Delta 344$
有利子負債	17,984	17,591	$\Delta 393$
その他	6,945	5,566	$\Delta 1,379$
<b>純資産</b>	<b>8,841</b>	<b>9,515</b>	<b>674</b>
株主資本	8,830	9,483	653
評価・換算差額等	11	31	20
<b>負債・純資産合計</b>	<b>36,865</b>	<b>35,422</b>	<b><math>\Delta 1,442</math></b>

[自己資本比率]  
 26.9% (前期末比 $+2.9$ pt)



# キャッシュフロー計算書

- 営業CF：1,645百万円 運転資金の改善に向け、進捗。
- 投資CF：△3,293百万円 感光材設備増強投資の実行により支出増加。
- 財務CF：△499百万円 有利子負債を一部返済。

	2019.3期 2Q	2020.3期 2Q	増減額
<b>営業活動によるCF</b>	<b>656</b>	<b>1,645</b>	<b>989</b>
税金等調整前純利益	842	1,031	188
減価償却費	930	1,063	133
売掛債権の増減額 (+は減少)	△447	64	511
棚卸資産の増減額 (+は減少)	△593	△340	253
仕入債務の増減額 (+は増加)	△55	△344	△288
その他	△18	172	191
<b>投資活動によるCF</b>	<b>△1,749</b>	<b>△3,293</b>	<b>△1,543</b>
<b>フリー・キャッシュフロー</b>	<b>△1,093</b>	<b>△1,647</b>	<b>△554</b>
<b>財務活動によるCF</b>	<b>615</b>	<b>△499</b>	<b>1,115</b>
現金及び現金同等物に係る 換算差額	27	△30	△58
現金及び現金同等物の増減	△449	△2,177	△1,728
現金及び現金同等物の期末残高	1,663	2,822	1,158

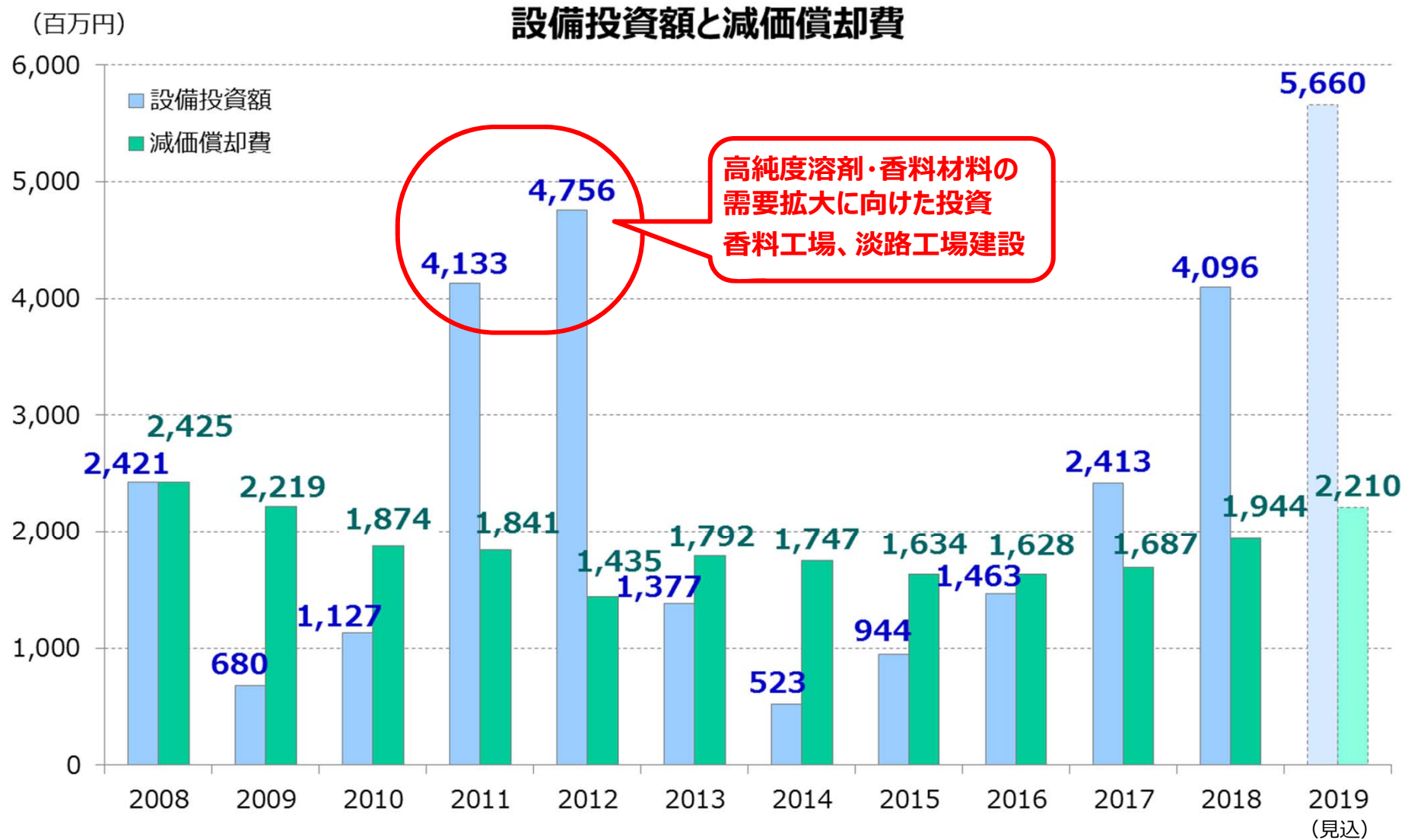
[売上債権の減少、棚卸資産の減少、仕入債務の減少]

在庫水準の見直し等により、  
運転資金が改善

[投資CF △3,293]

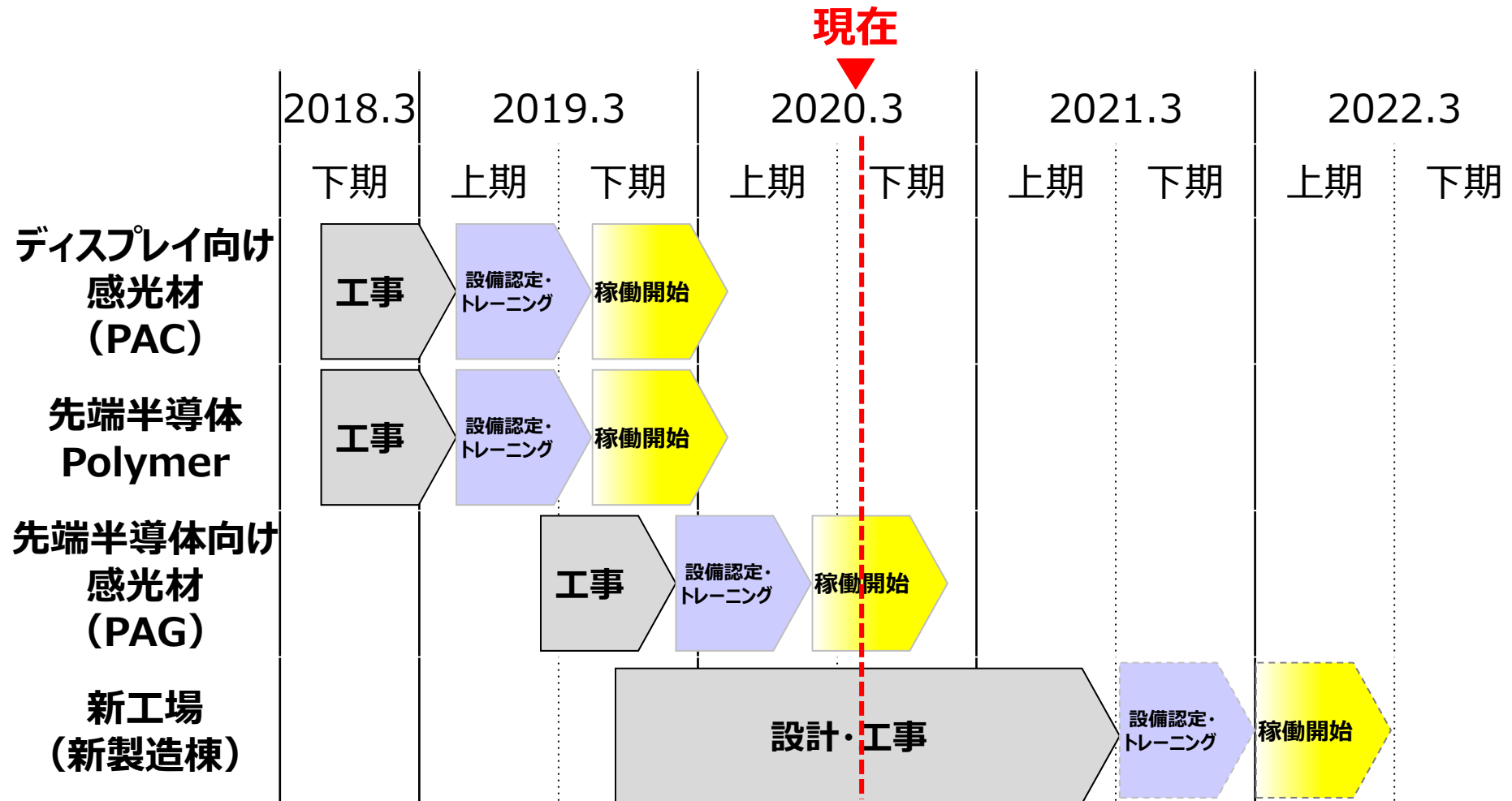
感光材の設備投資の実行により、  
支出増

# 設備投資額と減価償却費の推移



# 感光材の生産能力増強

- 需要増への対応として、感光材の設備増強を実施。
- 既存設備の増強は、計画通り完了。認定作業の完了後、順次稼働開始。
- 建設中の新製造棟も、2020年夏頃の完成に向け、計画通り進行中。



# 感光材（千葉工場）新製造棟建設

- 中期的な需要拡大を見据え、2020年夏頃の完成に向けて、計画通りに進行中。
- 顧客の設備認証（所要約6ヶ月）を経て、2021年春以降、製品生産開始予定。

完成予想図



工事進捗状況（2019年10月31日現在）



---

**1. 2020.3期 第2四半期 決算概要**

**2. 2020.3期 事業概況**

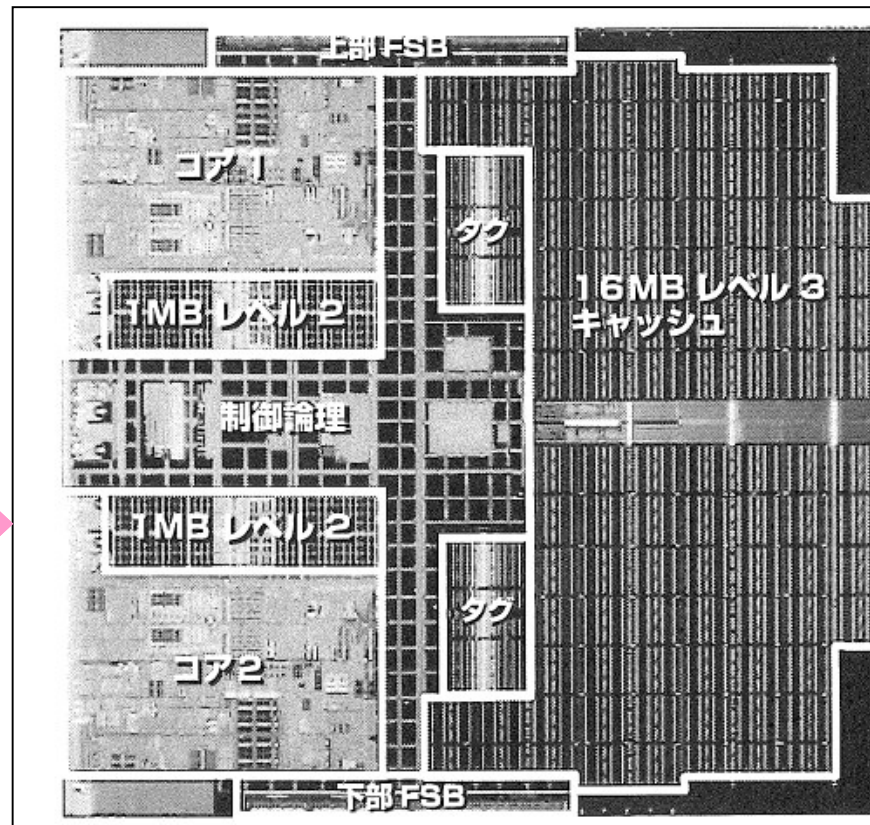
**3. 2020.3期 通期見通し**

**4. 今後の展望について**



# 半導体の中身

- ICチップ：CPU(中央演算処理装置)の写真



**1nm (ナノメートル) は  
0.000001mm (ミリメートル)**

線幅：700nm～20nm  
製造技術：65nmノード、8層Cu配線  
トランジスタ数：13億個  
チップ面積：435mm<sup>2</sup>  
レベル2キャッシュ：1MB  
レベル3キャッシュ：16MB  
動作周波数：3.4GHz  
電源電圧：1.25V  
消費電力：150W (ピーク)  
110W (平均)

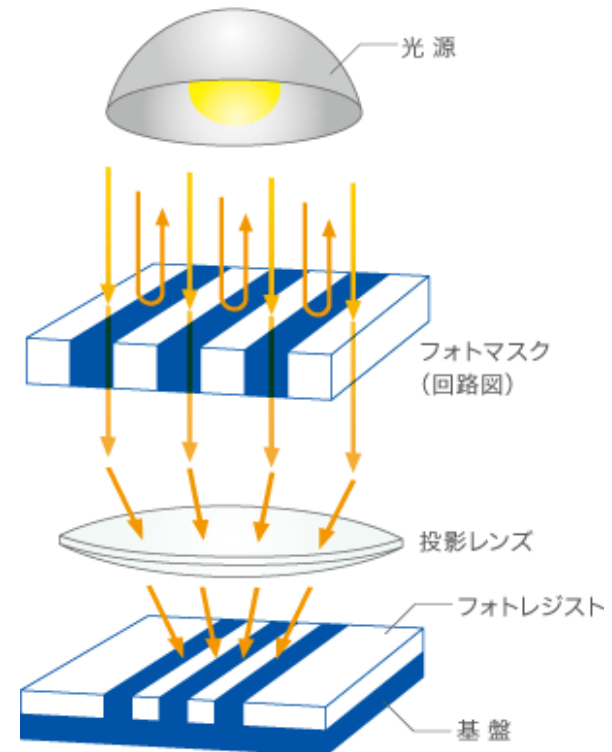
# 半導体やディスプレイの配線の作り方

- ディスプレイのきれいさ = 細かさ
- 演算装置/メモリ (半導体) の性能・容量 = 細かさ

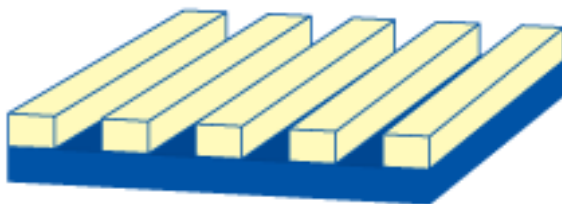
1. 基板に光に反応する薬剤を薄く均一に塗る



2. 回路図とレンズを介して光を照射 (露光) する



4. 現像液を用いて現像する



3. 光を照射 (露光) した部分だけ化学変化を起こす

# フォトレジストの構成

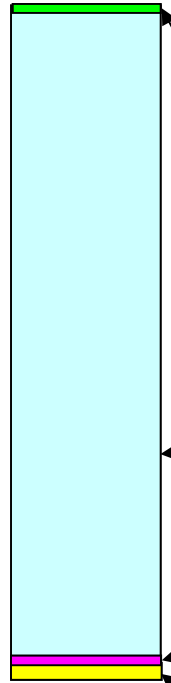
- 当社の感光材は、半導体、FPDの製造に使われるフォトレジストの性能を決定



**フォトレジスト（液体）**

※レジストメーカーにて調合。

一般的な  
フォトレジストの  
構成割合



計 100%



感光材

添加剤（界面活性剤 etc.）

高純度溶剤（PGMEA, EL etc.）  
※化成品事業の製品

感光材

PAG: Photo Acid Generator（光酸発生剤）

PAC: Photo Acid Compound

ポリマーに対して数% ~ 10数%

ポリマー（レジスト樹脂、ベースポリマー）  
数% ~ 10数%

当社製品



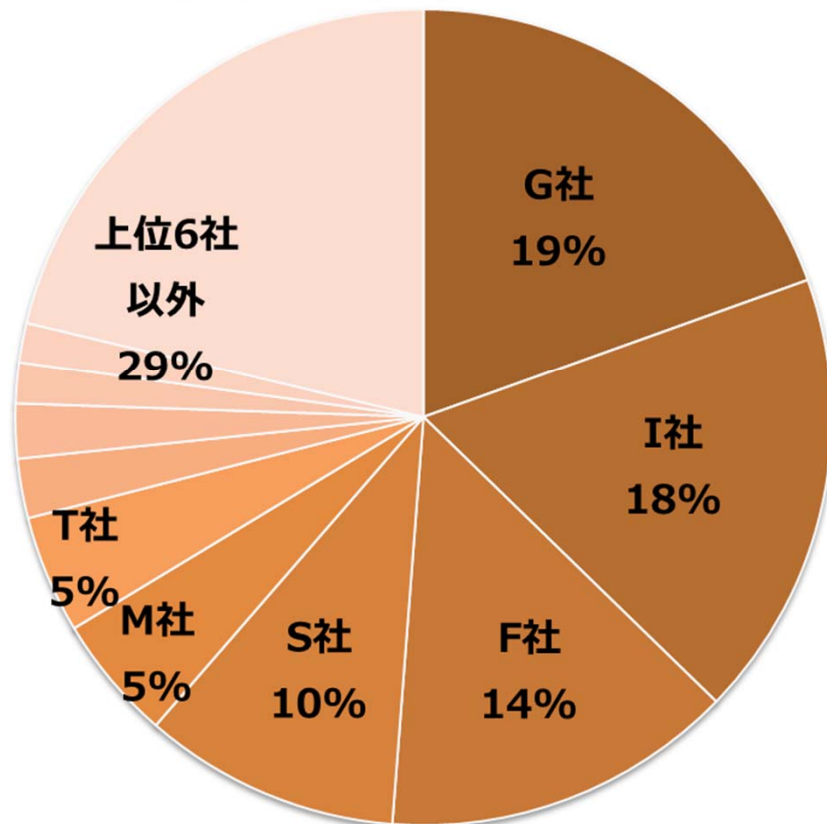
# 感光性材料・高純度溶剤のサプライチェーン

- 半導体性能を決定づける必須材料である感光材をグローバルに供給
- 日常の中で、半導体の使われる場面の増加に伴い、感光材の販売量も増加見込み



# 香料市場

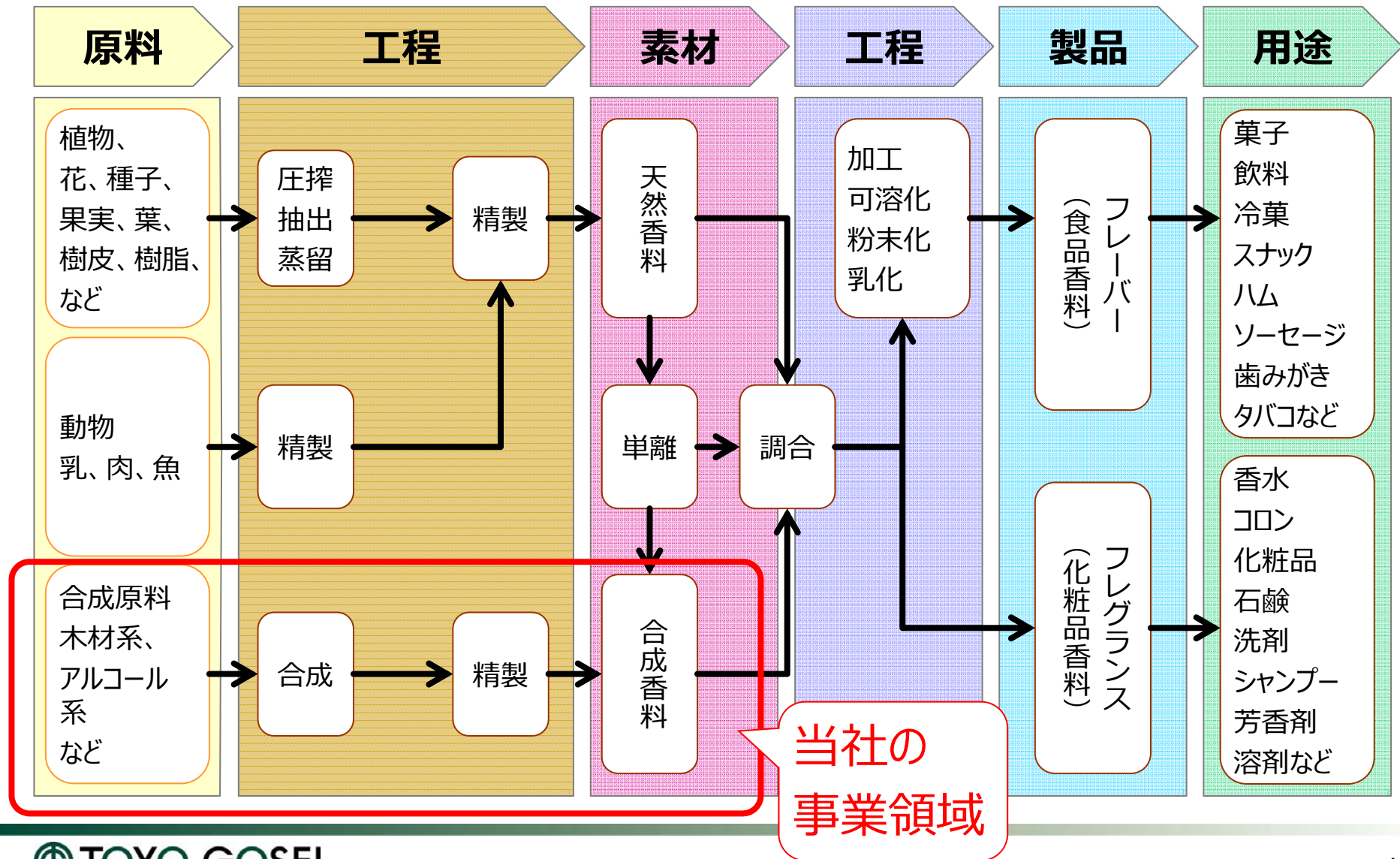
## 世界香料市場シェア



- 香料市場は、年平均3～4%で安定成長。
- 世界の香料市場は上位6社でシェア70%。
- 大手による中小香料メーカーへのM&Aが活発化しており、寡占化が一層進んでいる。
- 当社は幾つかの香料原料を供給しており、販売先はシェアの高い海外大手企業中心。その世界シェアは30～40%。
- グローバルニッチトップの位置となっている。

# 香料のサプライチェーン

- 当社は香料原料のうち、合成香料部分を事業領域としている。





# ロジスティック事業 高浜油槽所の利便性



様々な容量、材質、機能を備えた化学品保税タンク計65基を保有



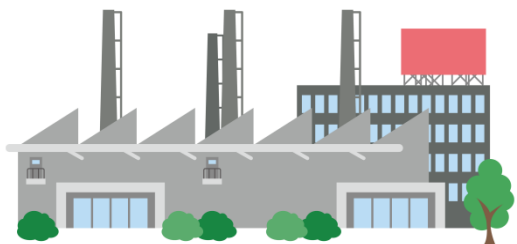
月間70隻の船舶で受け入れ



東京湾内最大の荷動き量、  
1日100台のローリー出荷を誇る

- 国内外で生産された化学品を首都圏一円へ輸送する一大ハブ拠点。  
東京湾内最大の荷動き量がある。
- 化学メーカーが運営する唯一のケミカルタンクターミナル。あらゆる荷姿に対応し、独自の分析室も完備し、万全の品質管理で幅広い種類の化学品に対応。
- 首都高速の千鳥町ICから数分の好立地。外環道開通により需要家の多い北関東への所要時間が大幅短縮。1日3往復も可能。運転手不足の解消に需要家からのニーズが常に高い。
- 消防法の規制により、新規の油槽所建設は難しく、参入障壁が非常に高い。

# ロジスティック事業のビジネスモデル



①国内外の化学プラントで製造された化学品をケミカルタンカーで輸送



②到着したタンカーから積荷をタンクへ受け入れ



③万全の品質管理で安全に保管



④タンク預かりの化学品をタンクローリーやドラムへ充填



⑤首都圏一円の需要家へ配送



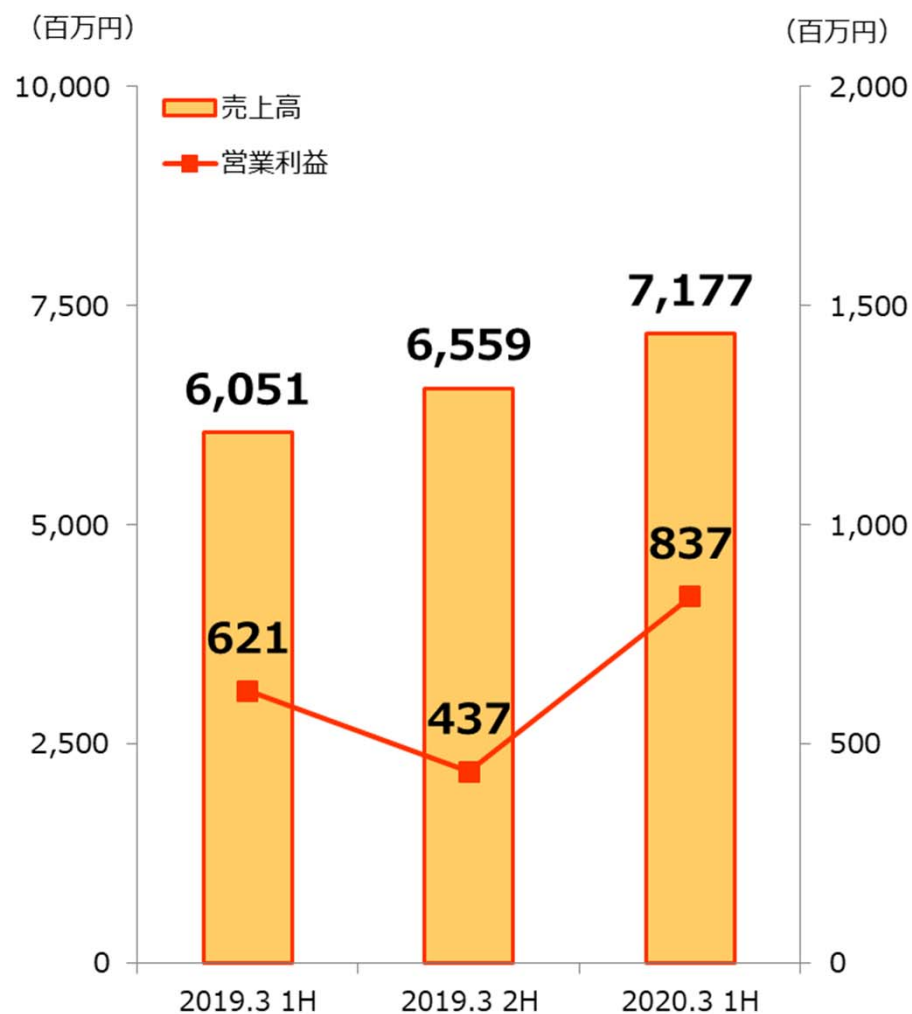
# 外環道開通で回転率向上

- 2018年6月に外環道が延伸開通し、北関東へのアクセスが向上し、輸送時間が短縮。
- 1日の往復回数増加により、回転率も向上。油槽所の高稼働が持続。



# 感光性材料セグメント

## 売上高・営業利益



## 売上高：7,177百万円

(前年同期比+1,126百万円、+18.6%)

- ロジック用途等、先端半導体（ArF、EUV世代向け）製品の販売が好調。
- 新規領域製品（半導体後工程向け材料）の販売増加。
- メモリ、ディスプレイ市況の減速影響あり。

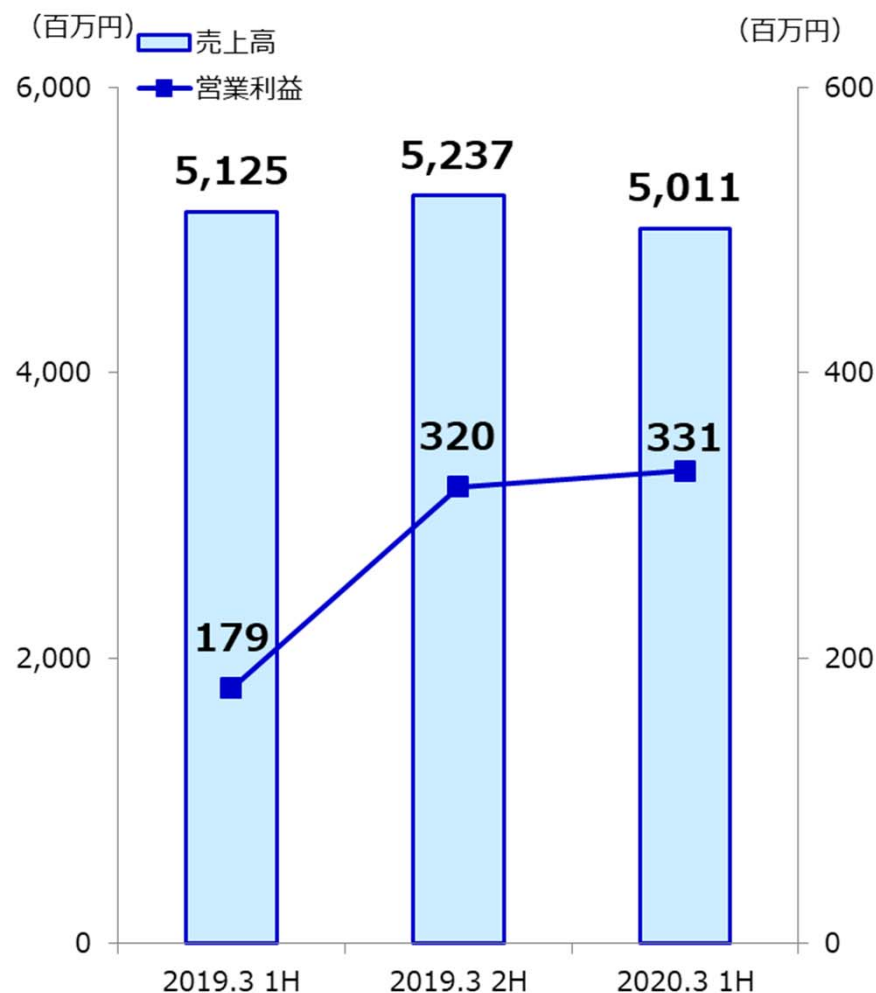
## 営業利益：837百万円

(前年同期比+215百万円、+34.7%)

- 生産能力増強に伴い、労務費・減価償却費が増加したものの、販売増により、増益。

# 化成品セグメント

## 売上高・営業利益



## 売上高：5,011百万円

(前年同期比△114百万円、△2.2%)

- メモリ、一般電子材料需要の軟化が続き、セグメント売上は減少。
- 先端半導体プロセス向け高純度溶剤は販売増。
- 香料材料も海外向け中心に増収。
- ロジスティック事業は、高稼働が続き好調持続。

## 営業利益：331百万円

(前年同期比+151百万円、+83.9%)

- 付加価値の高い製品の販売増により増益。



---

**1. 2020.3期 第2四半期 決算概要**

**2. 2020.3期 事業概況**

**3. 2020.3期 通期見通し**

**4. 今後の展望について**

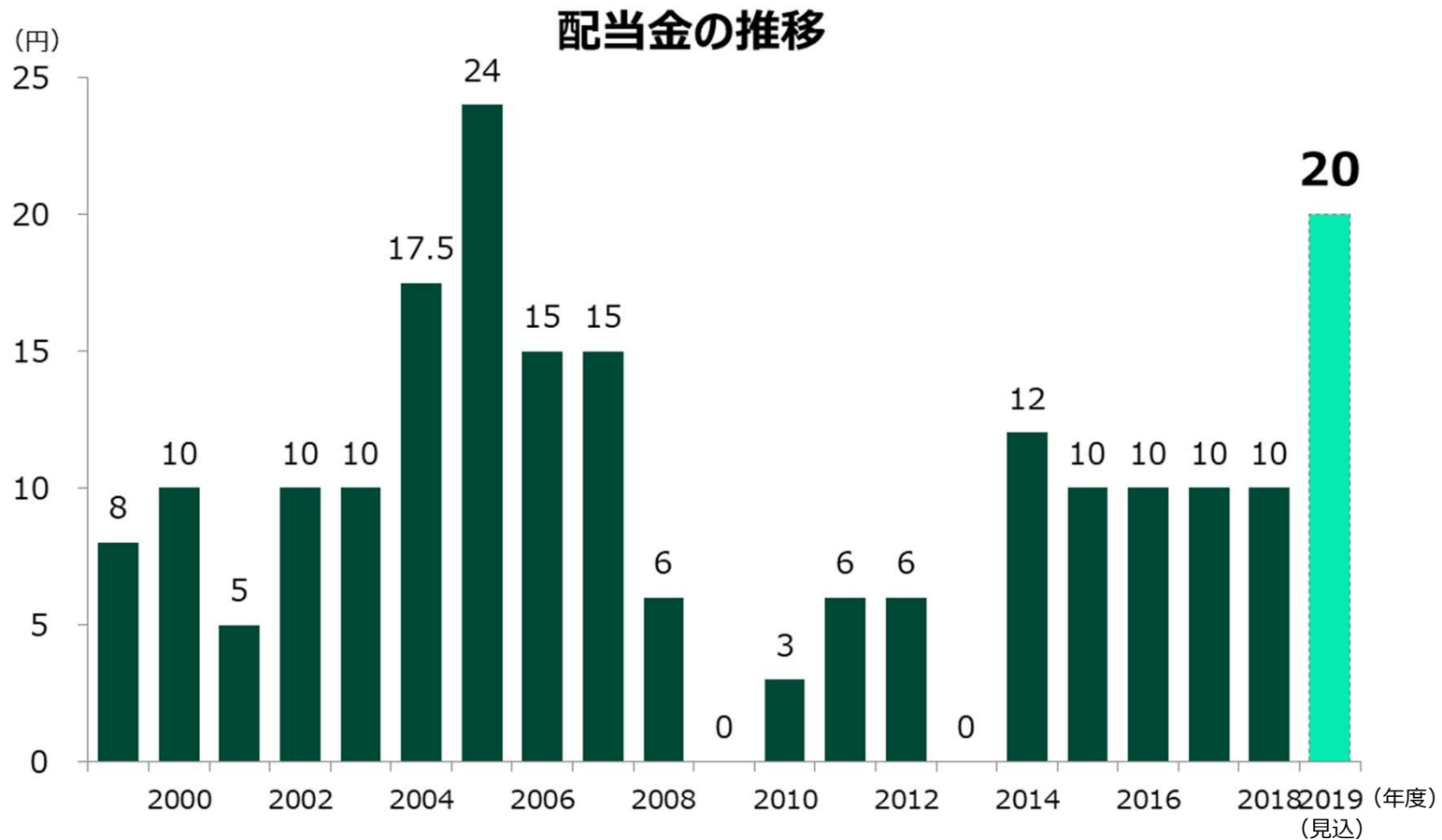
## 2020.3期 業績予想・進捗状況

- 下期も引き続き販売増による前年同期比増収を計画。
- 利益面は、工場定期修繕、来期完成予定の感光材新製造棟の製造人員増により、費用が上期比約3.5億円増加する見込み。
- 期初年間想定為替レートは ¥107/\$（上期実績¥107/\$、下期想定¥105/\$）。
- 為替感応度：¥1円安の場合 売上高6,500万円/年、営業利益3,000万円/年。

(百万円)	2020.3 通期業績予想	2020.3 2Q実績	進捗率
売上高	25,500	<b>12,189</b>	47.8%
営業利益	1,800	<b>1,168</b>	64.9%
経常利益	1,700	<b>1,064</b>	62.6%
当期純利益	1,600	<b>693</b>	43.3%

# 株主還元

- 2019年度は、年間配当10円→20円へ増配を計画。
- 株主還元方針に変更なし。  
安定配当を基本とするものの、事業成長、財務バランス等を総合的に勘案し決定する。



---

**1. 2020.3期 第2四半期 決算概要**

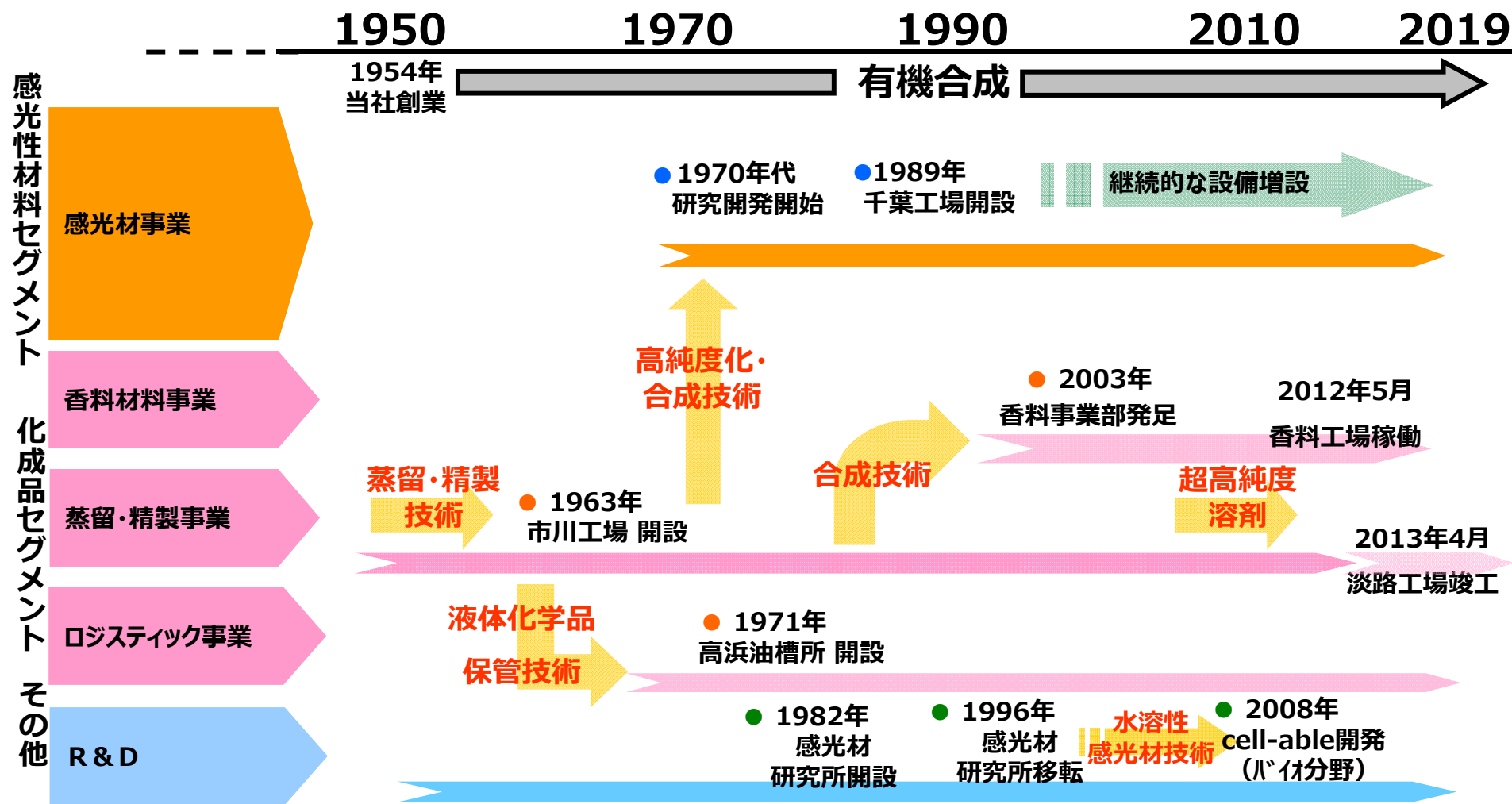
**2. 2020.3期 事業概況**

**3. 2020.3期 通期見通し**

**4. 今後の展望について**

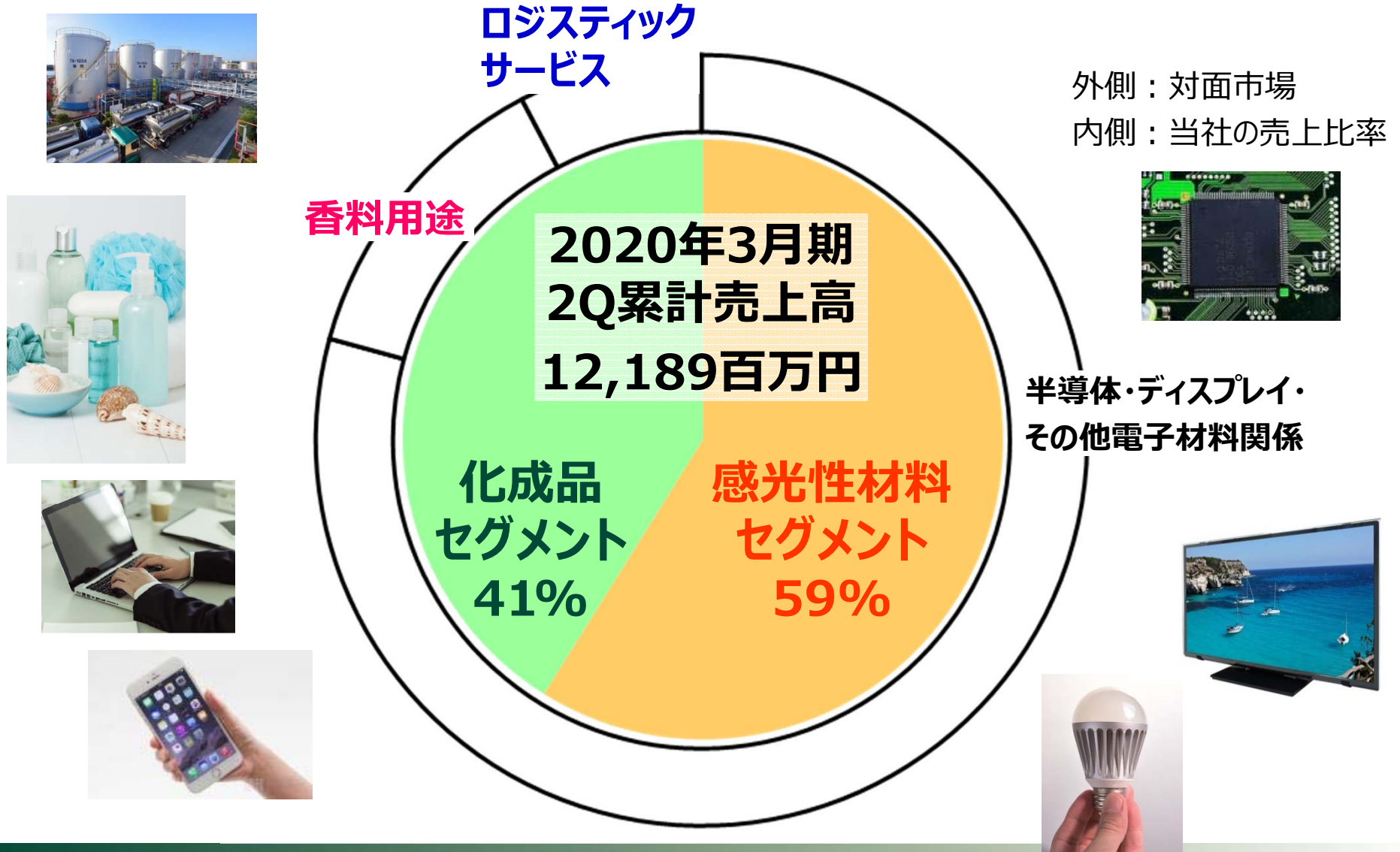
# 現在までの事業展開

- 1954年の創業以来、「有機合成」と「高純度化技術」を核に展開。
- 常に時代のニーズを先読みし、事業領域を拡大



# 事業ポートフォリオ

- 当社売上の8割が、半導体・ディスプレイ・その他電子材料関係。



# 中期経営計画 TGC300 の概要 (2018.8.10発表)

## ■ コンセプト

電子材料分野は、日常生活の中で電子デバイス等を使用する場面が急速に拡大しており、微細化・高機能化の進展とともに、高性能の機能性材料が一層必要となってきています。当社が蓄積してきた高純度合成力、精製技術により磨きをかけ、顧客品質を満たす安定供給体制を構築し、世界の技術革新に資する人・組織・事業の成長の三立を実現する。

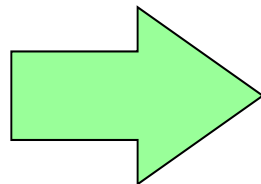
## ■ 中期経営計画のビジョン

顧客課題、技術課題一つ一つを真摯に独創的な視点で解決し、超高品質・生産性で世界No.1ダントツ企業となる。

## ■ 活動基準 (数値目標)

2018年3月期実績

売上高：205億円  
経常利益：10億円  
経常利益率：5.3%



2023年3月期目標

売上高：300億円以上  
経常利益：30億円以上  
経常利益率：10%以上  
設備投資額：120億円  
(戦略投資の中期経営計画期間累計)

# 中期経営計画 全社戦略

---

## ■人材育成

- ✓文化的多様性を許容できる次世代ビジネスリーダーの育成。
- ✓生産性向上に向けた人材投資の強化。

## ■技術戦略の強化

- ✓顧客品質と生産性を両立する製造技術開発強化。
- ✓世界随一の蓄積された高純度製造ノウハウとIoT技術の融合による生産性の向上。
- ✓技術シーズを事業化する体制を強化し、次世代のビジネスポートフォリオの構築を図る。

## ■経営基盤の強化

- ✓電子材料サプライチェーンを支える安全技術力を高める。
- ✓企業価値向上を目的としたガバナンス体制を構築する。



# 中期経営計画 セグメント戦略

---

## ■ 感光材セグメントの生産能力拡大

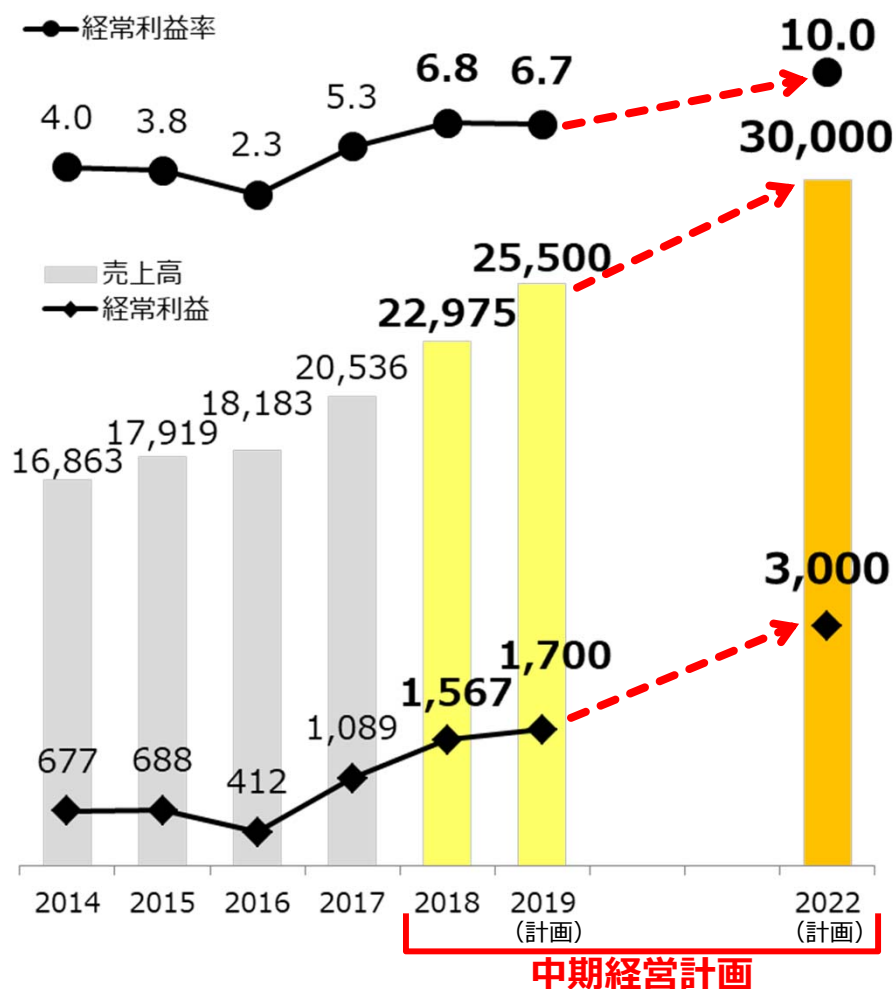
- ✓ 顧客品質の実現により、電子材料の技術革新に貢献する。
- ✓ 最先端半導体を支える超高純度合成と生産性向上の両立。

## ■ 化成品セグメントの事業強化

- ✓ 先端半導体向け超高純度溶剤の品質・開発・安全供給体制の強化。
- ✓ 自動化促進と化学専門タンクターミナルとしての更なる高付加価値化。

# 中期経営計画の進捗

- 中期経営計画「TGC300」の達成に向けて、計画通り順調に進捗。



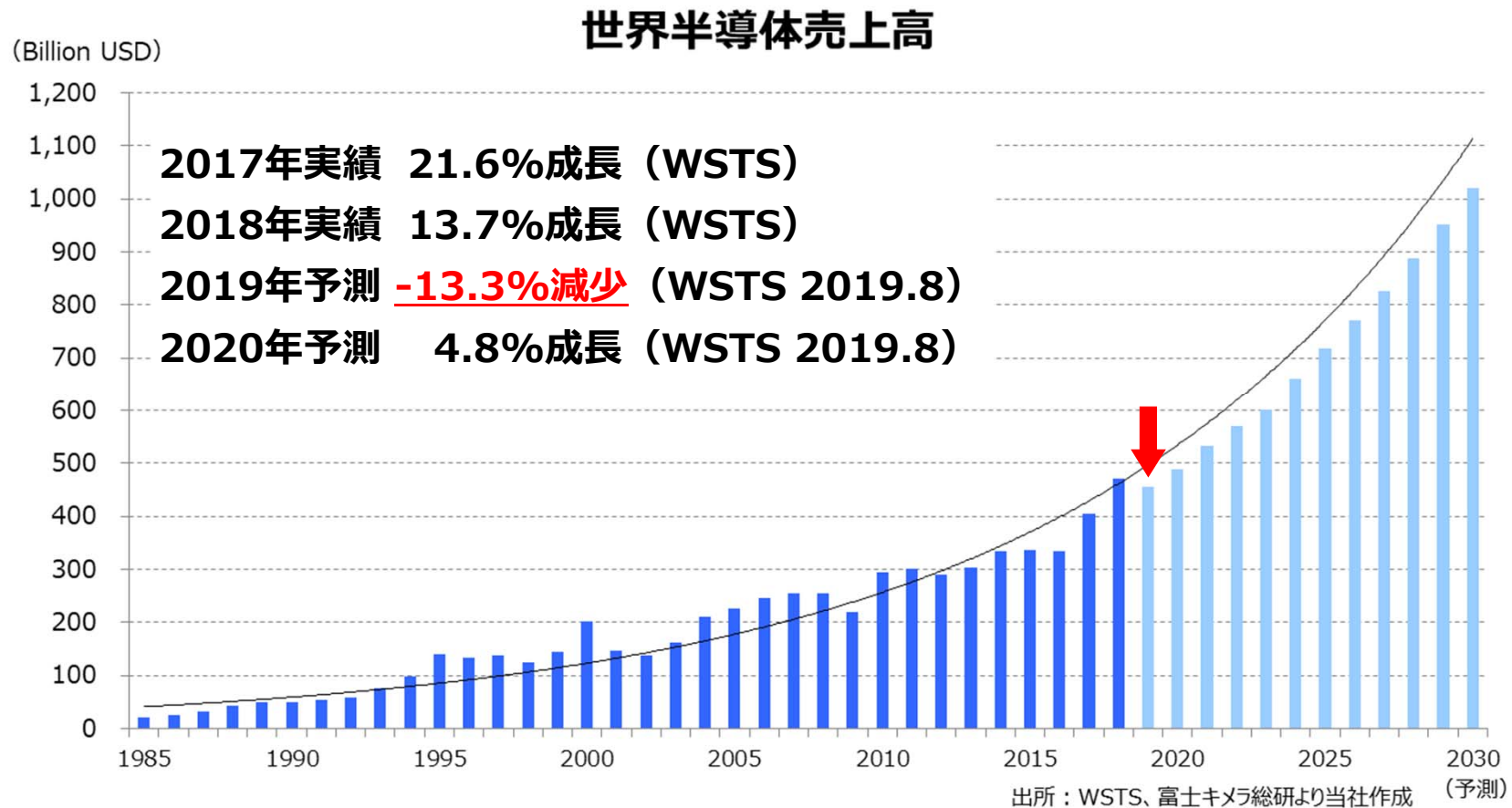
- 中期経営計画1年目は、計画を超過。  
(計画比売上高+2%、経常利益+16%)

- 中計2年目の当上半期は、売上高は当期業績予想比で2%未達も、利益は予想比約15%超過見込み。

- 中期経営計画の達成に向け順調に進捗。

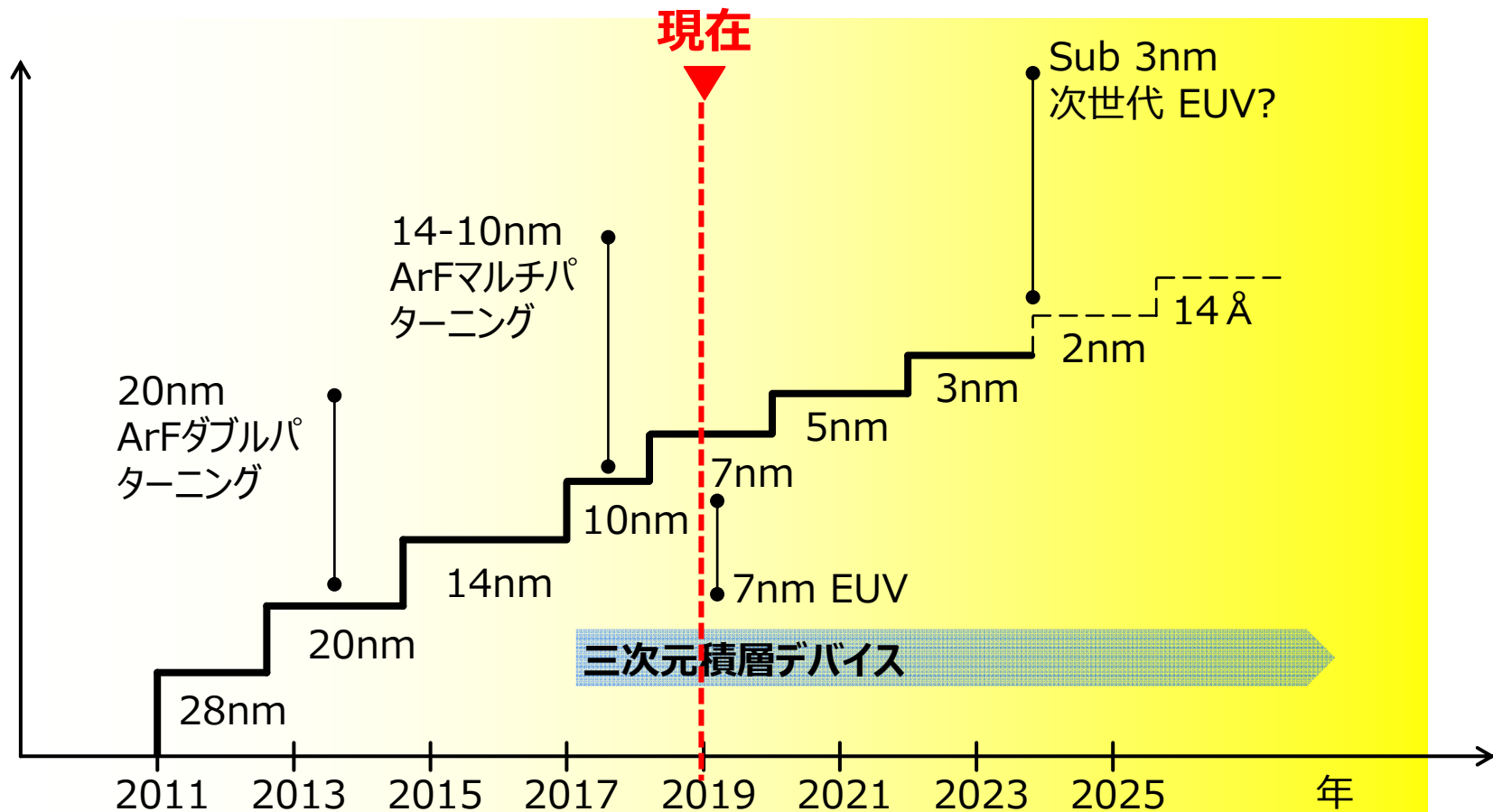
# 事業環境～半導体市場予測

- 半導体市場は2017年、2018年と大きく成長したが、2018年秋以降は減速。
- ロジックは堅調。
- 中長期的にはAI、IoT、自動運転、5G等により、市場は大きく成長する見込み。



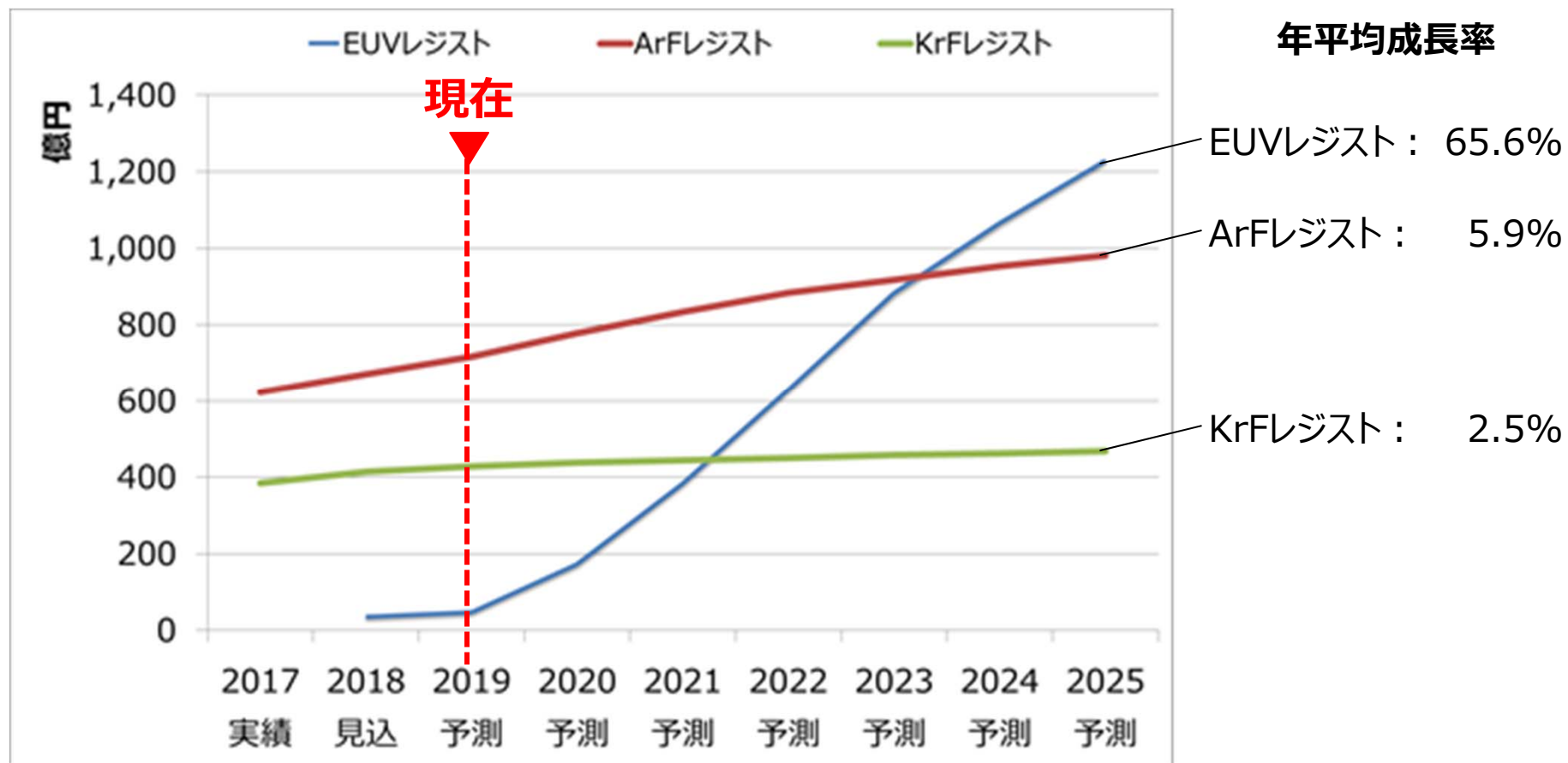
# 半導体配線の微細化の進捗

- 半導体の線幅の微細化は継続、現在は7nmまで量産化。
- 今後2025年に向けて、2nmレベルまで微細化が検討されている。
- 配線の微細化、三次元化の進展に合わせ、プロセス材の高純度化が必須となり、超高純度感光材、超高純度溶剤のニーズは拡大傾向。



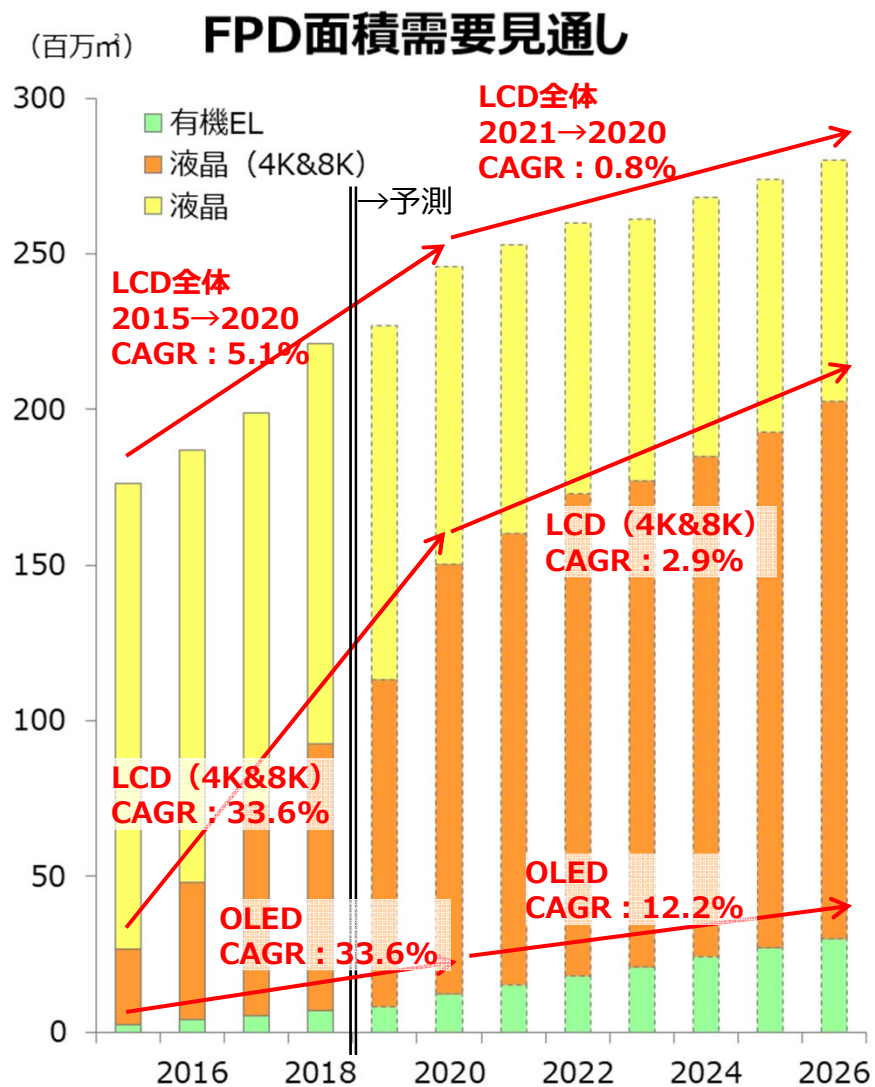
# 先端半導体向けフォトレジスト市場予測

- EUVレジストは、2018年トライアル生産～量産、2019年以降に立上がる見込み。



出所：(株)富士キメラ総研「A（オングストローム）半導体プロセス材料／技術の展望調査（2018年7月）」より当社作成

# ディスプレイ市場予測

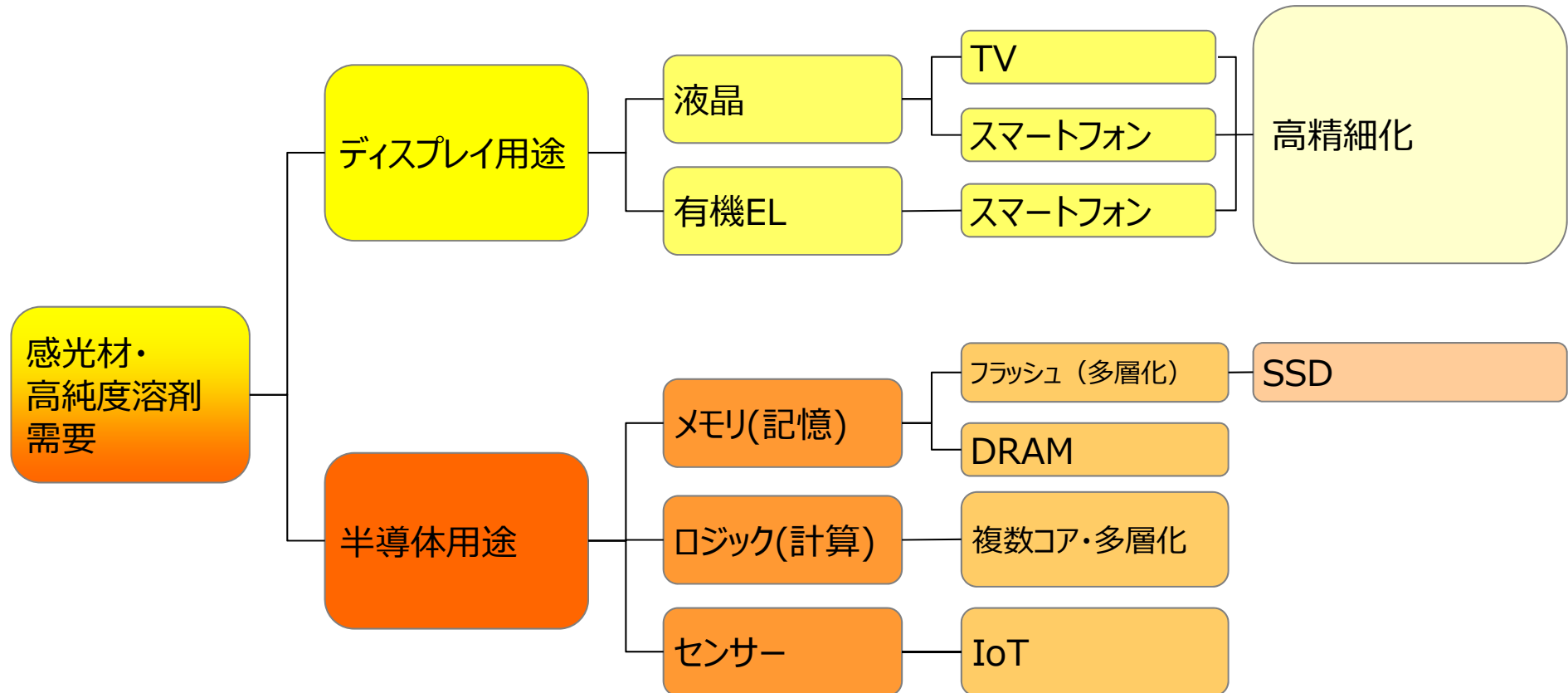


出所: IHS Markit

- 2017～2018年に液晶パネル製造が韓国から中国へシフト。
- 中国で大型工場が次々に立上がり。現在は、市況低迷により調整中。
- パネル面積は2020年までは5%成長だが、2021年以降は鈍化。
- 総需要面積は鈍化し、高解像度化が進展。4K8K・OLED等のハイエンド品の割合が高まっていく。
- 従来からのPC、スマホ、タブレットのほか、各種家電、自動車、街中広告など、ディスプレイ利用シーンが増加見込み。

# 感光材/高純度溶剤の需要ドライバー

- 感光材の需要は、市場全体の成長率だけでなく、半導体・ディスプレイの進化によって高純度の新材料が必要とされ、需要を喚起される



# 当社の電子材料向け製品とトレンド

- 半導体の微細化が進み、EUVも徐々に立ち上がりつつある。
- 2019.3期は、EUV用途の感光材の本格生産開始。
- 引き続き全世代の感光材の品質向上に対応し、製品ラインナップの更なる拡充を図る。

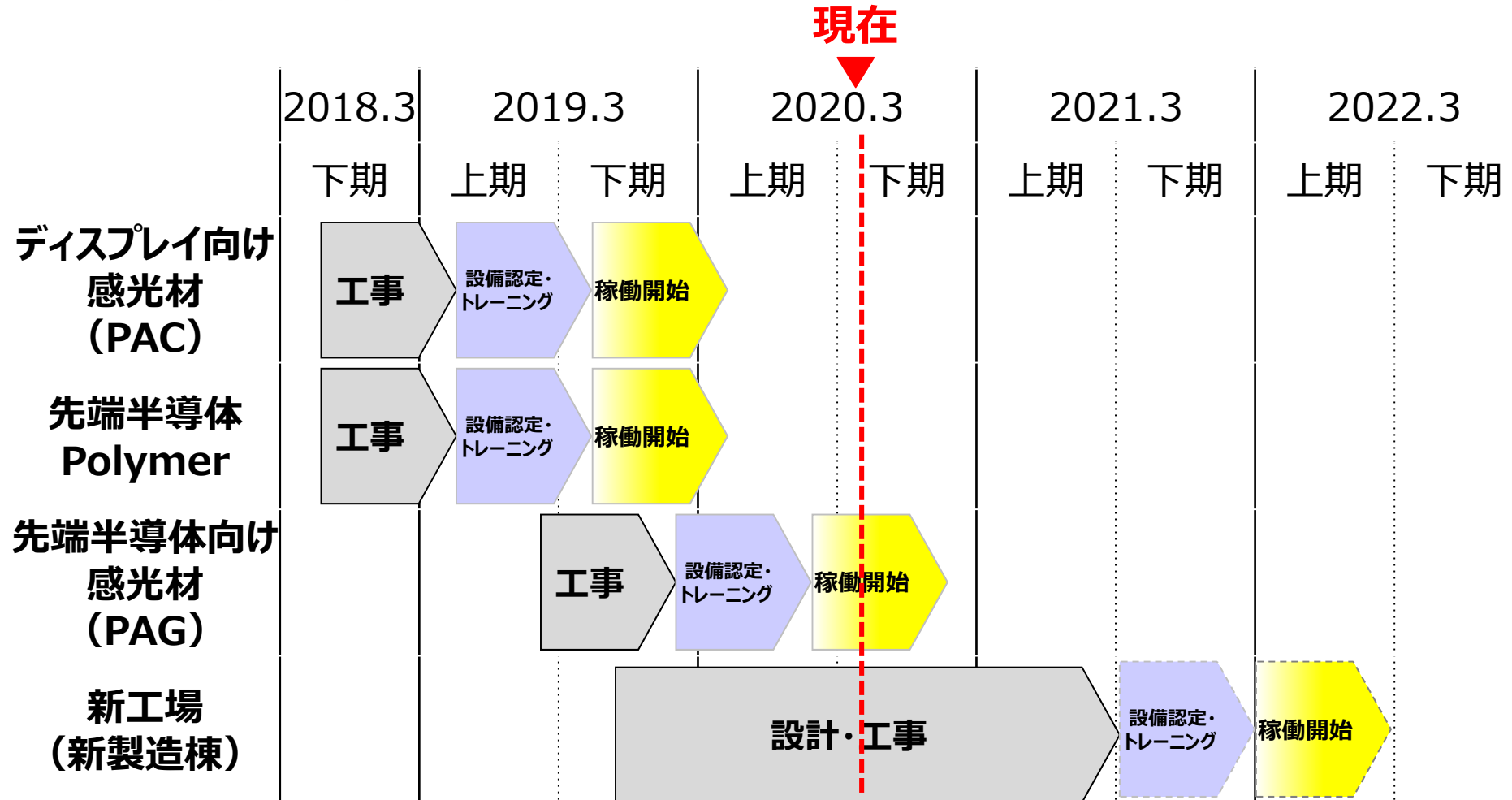
= 調整局面  
 = 技術進化による需要拡大

FPDパネル用		半導体用									
光源	g+h+i線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	ArF DP	ArF MP	EUV	
	ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~7nm	~5nm
用途	テレビ用、 一般用	中小型 パネル	IGBT、LCDドライバ、 LED		DRAM/NANDメモリ (2020年市場回復見込み)				次世代DRAM (2020年~)		
		スマホなど	後工程用パッケージ材料 CMOSセンサー		先端ロジックLSI⇒堅調				次世代ロジックLSI EUV適用開始		
市場	調整	調整~ 中国パネル 投資拡大	緩やかに 拡大	拡大 傾向	調整中	横ばい	量産拡大 半導体設備投資拡大		半導体設備投資 加速		開発中
当社製品	感光材 (PAC) 高純度溶剤				光酸発生剤 (PAG) Polymer 高純度溶剤						



# 感光材の生産能力増強（再掲）

- 需要増へ向け、感光材の設備増強を実施。
- 既存設備の増強は、計画通り完了。認定作業の完了後、順次稼働開始。
- 建設中の新製造棟も、2020年夏頃の完成に向け、計画通り進行中。



# 感光材（千葉工場）新製造棟建設（再掲）

- 中期的な需要拡大を見据え、2020年夏頃の完成に向けて、計画通りに進行中。
- 顧客の設備認証（所要約6ヶ月）を経て、2021年春以降、製品生産開始予定。

完成予想図



工事進捗状況（2019年10月31日現在）



# 今後に向けて

---

半導体黎明期から約半世紀、世の中のニーズに対し、技術を通して、常に真摯に取り組み、それ故、独創的な高純度化技術・合成技術・製造技術を開発し、現在のポジションに至りました。

高速通信の世界的普及し、あらゆる電子機器のつながり、データはリアルタイムに処理され、さらにAI化が企図される昨今、電子材料需要は高度化/多品種化しつつ急拡大し、お客様から多くのご要望を頂いております。

このような社会変革を背景に、中期経営計画「TGC300」の目標の実現に向けて進んでまいります。ご支援いただいている、お客様、金融機関、投資家はじめとするステークホルダーの皆様のご期待に、社員一丸となって、未来社会の実現を図り、企業価値向上を通してお応えして参る所存です。

何卒、引き続きのご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

# 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。